

## 線香花火

有田 睦子

闘茶」というものをご存知の方はよくお分かりだと思うが、結構きついお茶を何杯も飲まなければならぬ競技と言っか、お遊びである。

長く趣味として茶道をたしなんているが、ある時「闘茶」に挑戦することになった。「度は経験したいと思っていたので選ばれたときは心弾むのを覚えた。

「闘茶」を説明すると中国の宋の時代、遊びの一つとして遊戯ではじまり日本では鎌倉時代に入ってから喫茶として本格的に行われるようになったらしい。その後、各地で茶木の栽培が盛んになり飲み分ける遊びとして始まったとか。だんだん方法も複雑になり、南北朝時代から室町時代初期にかけて最も盛んに行われたのが四種十服茶やしゅじぶくちやであった。ちなみに貴族たちの賭け事にもなったらしい。

今も四種十服茶の形式がよく使われている。味と香りを確認させるものである。

種茶とよばれるもの三種類からそれぞれ二袋ずつ、試飲に出さなかつた客茶「袋の十袋のお茶袋を作る。参加者には初めに種茶の「一二三の順に飲み、後は順不同に提供される。一服のお茶は、いわゆる煎茶で使われるお猪口のような茶碗に入れられている。十服それぞれ茶名を回答し、正解が最も多いものが勝者となる。

私の成績がどうだったか覚えていない。とつより記憶にないのだ。三〜四時間のお茶会だったはず。だが気が付いたときは竹田駅の水

ームに立っていて、電車が通過するたびホームから飛び降りたい気持ちになるのだつた。

これはもう正常ではないと感じた。頭の中が田中にもかかわらず夕暮れ時の侘しさを漂わせ、火花が回っている。まるで子供のころ縁側で祖母たちと遊んだ線香花火のような柔らかい火花なのだ。どうしたのだろうか。とりあえず家に帰らなければと必死だつた。足もともふらついていたはず。携帯電話で家人に連絡は取れた。駅まで迎えに来て欲しいとも言えた。なんとか帰宅して、翌日病院に行く。脳の精密検査を受け、その他の身体も診察してもらい、異常なしのドクタ―の響きが嬉しかった。

では、何があつたのだろうかと考えてみた。はつきりとは言えないが私にはお茶の成分がきつかつたのだろう。

日本茶「緑茶」には、カフェイン「渋味」カテキン「苦味」テアニン「ま味」などは良く知られている。GABAというのも聞き及びと思つが、これは血圧低下作用の効能がある。高血圧症にはいいのだが、低血圧症の者には悪さをするらしい。私の場合も急激に血圧が下がつたらしい。

お茶飲みの私だが、とんだ花火を見せられてからは少し薄めのお茶を飲む。最近では麦茶党になつた。でも渋いお茶で甘いおまんじゅうと一緒に頂く楽しさは、何物にも代えられないことは身体が覚えてしまつてゐる。

